



全般的感想～ 大成功の国際キワニス・ ASPAC合同年次総会 東京・千葉大会 2014. 7. 17～19



7月17日より19日まで千葉市幕張で、世界中から3,000人(台湾から800人)の参加者の下、開催された国際総会は、大成功であった。東京キワニスクラブ50周年の事業の白眉であった。わがクラブ会員諸兄のおもてなしの心、組織力、機動力を世界のキワニアンに強く印象付けた。ホスト・コミティー、サブ・コミティーの皆様はじめ、ご協力戴いた会員諸兄のご尽力に心から感謝する次第である。



今総会の特色は、次の3点に要約される。

- (1) 秋篠宮殿下・妃殿下を開会式にお迎えし、温かいお言葉を賜ったこと。キワニスは来年100周年を迎えるが、長い歴史の中でロイヤル・ファミリーのご列席をいただくことは初めてである。
- (2) 規約改正、役員選任といった総会の議事に加えて、日本らしい充実したプログラムが数多く実施され、特に海外からの参加者に感動と感銘を与えたこと。幕張総合高校の合唱・吹奏楽団の演奏、三宅由香莉三等海曹をはじめとする海上自衛隊東京音楽隊の演奏、吉川久子女史のマタニティ・コンサート、広島ジュニア・マリimba・アンサンブルの演奏、山下八段の講演とちびっこ柔道の演技等々枚挙にいとまがない。
- (3) 幕張総合高校、身延山高校をはじめとする若い世代や地元千葉県の有志が積極的に参画し、大会を盛り上げたこと。
北里会員が国際理事に選任されたこと、わがクラブがエリミネイト100Kクラブとして表彰されたことも特筆に値する。皆様のご活



躍の結果、NHK、千葉テレビや読売、日経、産経、東京、電気新聞、共同通信（配信）、埼玉新聞ほか地方紙、ジャパンタイムズ等の日刊紙で大会の様子が広く報道されたのも、記憶に残るものである。

本当にご苦労様でした。（藤原武平太会長）



国際理事に就任して

7月17日から19日、千葉・幕張に於いて国際キワニス年次総会と共同で開催されたASPAC総会の選挙で、私の国際理事の就任が決まりました。日本からの国際理事就任は、佐藤満秋会員（東京）、小田忠雄会員（仙台）に次いで3人目となります。

この1年半は国際大会の準備に追われていましたので、国際理事への取り組みについては、7月の国際大会での選挙が終わった後で10月から取り組もうという気持ちでいました。ところが、私の考えは、全く甘く、実際は8月から始まる世界の各地区の大会にカウンセラーとして出席しなければならず、千葉幕張の後始末やご挨拶を済ませる間もなく、8月19日から開催のペンシルバニア地区大会に出席してカウンセラーの役を務め、続いて9月半ばの韓国の地区大会への出席と仕事が始まってしまいました。カウンセラーは、世界の約50の地区を対象に1人3地区を1年間担当することになっており、3年の任期中に9地区を担当します。私の最初の1年間の担当地区は、ペンシルバニア、韓国の他にミシガンの3地区です。それに国際役員会が年4回あり、ASPAC大会も入れると、年に8回は海外に出かけて会議や大会に出席することになります。



9月20日に開催の韓国地区大会から帰国した私は、



その1週間後に、今度は国際キワニス役員会に出席するため、インディアナポリスに来ているところです。

国際役員会の資料は膨大で、スピードリーディングの能力をつけなければこなせないほどの英文の資料が事前に送られて来ます。来年は国際キワニスが100周年記念の年になりますので、各地区でそのお祝いが行われるとともに、役員会では、次の100年に向けてキワニスは何をすべきかという長期戦略の討議が行われます。更に、各地区の会員増強と成長戦略、エリミネイト・プロジェクト・キャンペーンの最終年度の追込みの仕方、子ども支援のあり方の討議等、短期の問題解決に関する審議を含めて1週間かけて行います。日本地区のこれからの活動計画に役に立つ情報が多々あり、また、日本で行っていることで世界各地区に参考になりそうなことも多々ありそうです。国際理事の一員として、100年の歴史を有する国際キワニスのこれからの経営に貢献できることは大変やりがいのある仕事です。これからの3年任期の仕事が、世界のキワニスのため、また、日本地区のために、価値のある活動になるように頑張りたいと思っています。皆様のご支援をよろしく願います。

（北里光司郎国際理事）

VIP 接遇サブ・コミティー苦心談

「VIP 接遇サブコミティー」の役割は、各国からのVIP及び同伴者を成田空港と羽田空港で間違いなくピックアップして、リムジンバスに乗車させることでした。何人かのVIPは、7月12日以前に到着し出迎え不要ということでしたので、7月13日から16日までの4日間、実質、VIP 57人、登録同伴者を入れると109人を出迎えたこととなります。

57人のVIPを出迎えるに当たって、英語の出来る会員が揃うのか不安だったのですが、東京、千葉、埼玉の会員はもとより、会員のご家族まで動員していただき、しかも1人で何人ものVIPを担当していただくなど、何とか出迎え体制が整いました。最も頭が痛かったのは、朝6時20分に到着するVIP、夜9時に到着するVIPなどへの対応でしたが、これも会員が積極的に申し出て対応していただき、事なきを得ました。到着してから入国手続きを終え出口に至るまで平均40分、場合によっては予

定より早く到着する便もあり、担当者は早くから空港に来て長時間張り付けていただくことになりました。

実際の出迎えでは、思わざるハプニングがいくつかありましたが、とにかく登録VIPが1人の漏れも無く無事にホテルにチェックインできましたのも、出迎えに当たっていただいた会員の皆様のお陰と感謝しているところです。

(伊藤一實
VIP接遇
サブ・コミ
ティー共同
委員長)



情報サブ・コミティー苦心談

昨年春に招集が掛かり、ホストコミティーの組織に加わる事になりました。「4つのサブ・コミティーの一つ情報コミティーの共同委員長を引き受けろ」とは、まさに青天の霹靂でした。総会は人事(ひとごと)のように感じていたので、自分が海外からのメンバーを直接接遇することになるとは。まず最初に心配したのは、海外勤務から帰国して17年経っており、その間観光旅行は何回か行き



ましたが、ろくに英会話を必要とする仕事もしておらず、先行き真暗でした。慌てて昔使った

英会話教材を引っ張り出して復習を始めましたが、テープのヒアリングでは、「遠くの太鼓」を聴いているような感じでした。

しかし、天は我を見捨てず、素晴らしいサブ・コミティーメンバーに恵まれました。正確で的確な英語を話される共同委員長の千代田クラブ澤井さん、副委員長の、積極的に海外会員に接する横浜クラブ松本さん、英会話を中心とした事業を主催されている埼玉クラブ遠藤さん・野間さん、地の利を生かした情報収集に務めて頂いた千葉クラブ安井さん、極めつけは埼玉クラブ武井さんでした。豊富な業務知識を生かして大会での情報提供システムを構築し、大会参加会員のみならずコミティー各委員にもお役に立てることができました。

大会終了後の撤収作業の時に、つくづくキワニスをキーワードとした人の輪が作る力を感じた次第です。

(迫秀一郎情報サブ・コミティー共同委員長)

空港案内サブ・コミティー苦心談 (『待つ身』の悦び)

このお役目を引き受けたとき、なぜか太宰治の「待つ」という超短篇小説を思い出した。二十歳(はたち)の娘の「私」が毎日小さな駅に行き、冷たいベンチに座って最後まで現れることのない「誰か」を待つというだけの話である。私たち「空港案内人」の場合は、小説と違って確実に現れる「誰か」を迎えるのであり、ベンチにぼんやり座っているわけにはいかぬ。

とはいえ、わがチームのほとんどは、昔は別として出

迎えられることはあっても出迎えることは滅多にない方ばかりである筈で、Kバッジだけが頼りの、身も心も疲れる仕事であ



る。当たりをつけた飛行機が到着するたびに、衰えつつある視力と脚力に喝を入れて、ターゲットに立ち向かったのである。

二日間に絞り、キャッチ率9割を目指したのだが、概ね目標を達成できた。

日本人の「迎える心」が通じて、お礼のメールも沢山

届いた。それにも増して嬉しかったのは、普段話すことがないメンバー同士が、まさに忙中閑あり、待ち時間に交流の機会を持てたことである。

「待つ身の辛さ」を償ってあまりある「待った甲斐」を秘かに悦んでいる。

(佐々木信行空港案内サブ・コミティー共同委員長)

登録サブ・コミティー苦心談

当初は、3000名の参加者に対して登録サブ・コミティーとしてどのように対応するのが最大の課題でした。国際本部からの指示やバンクーバー大会の状況などから検討いたしましたが、なかなかイメージの具体化に至りませんでした。そこで、昨年12月初めに5クラブの登録サブ・コミティーメンバーが一堂に会し、役割と体制についてフリーディスカッションを行ったところメンバーの認識を合わせることができました。更に、大会までの準備スケジュールについても合意いたしました。

大会までの最大の課題は要員の確保でした。他のサブ・コミティーとの調整もありなかなか体制表が埋まらない状況でした。しかしながら、7月初めには、各クラブの皆様の絶大なご協力と延べ約140名の体制表が完成し、大会を迎えることができました。

開会式の前々日7月15日の午後、トートバッグへの資料の詰め込みに30名の皆様の参加をいただきました。資料の部数がまちまちであったり、詰め込みが終わったバッグの保管準備がないなど、国際本部の用意不十分から、大変暑い中で立ったままの厳しい4時間の作業でした。

翌16日午前9時前には、登録サブ・コミティーメ

ンバー25名が登録受付の開始を待っていました。受付はアルファベット順に8か所で行うことで要員の体制をたてておりましたが、国際本部は9時になり突然の方針変更で、日本、台湾、その他の3か所とすることになったと通告してきました。このため、集



まっていたメンバーには、急遽、日本会員のポケットをクラブ別に分ける作業を行っていただくこととしました。更に、その後の体制を変更することとなり、各クラブはそのための連絡をすることになりました。

東京・千葉大会が成功裡に終わったことは大変喜ばしいことではありますが、登録サブ・コミティーとしては想定外の結果でした。しかしながら、万全の準備をしていたからこそ、国際本部の突然の方針変更に対応できたと考えております。登録サブ・コミティーメンバーの皆様のご協力には心から感謝申し上げます。

(高坂和夫登録サブ・コミティー共同委員長)



国際大会にキワニスドールを展示

7月17日に幕張メッセで開催された国際大会開会式会場に田園調布学園からお借りした服を着たキワニスドールと素のキワニスドール、写真等を展示し、来賓の秋篠宮殿下ご夫妻をはじめとして、各国のキワニス会員の方々にご覧頂きました。17日午後からは、展示会場に展示を移動し、18日まで展示して、内外のキワニアンとキワニスドールについて、活発な意見交換を行いました。

(大東健治ボランティア活動委員長)

ユース・フォーラム活動元年

学生達の目の輝きと表情の明るさが増したことを確認できたとき、「奉仕する事は、奉仕される事」を実感した瞬間でした。

青少年ボランティア団体同志の交流と協働の機会を創生提供する事を目的に、キワニスユースフォーラムが設

立されたのは平成24年秋でした。しかし、加盟団体同志の面識も浅く、また所在地も離れていることから、



フォーラム運営を活発にする具体策は手探り状態でした。

そのような時、日本初の国際キワニス年次総会開催について知らされ、フォーラム加盟団体の活動に繋がらないものかと考え始めました。北里ホストコミティー委員長はじめ関係各位のアドバイスを基に会場で活動紹介のブースを設けることで方向が定まり、加盟団体に呼びかけを始めました。各団体の所在地が離れていることもあって、打合せが出来たのは、今春から本番までに2回。後は、参加を表明してくれた6団体から展示パネル用の団体紹介データが送付されてくるのを待つばかりでした。やっと集まったのはほぼ6月下旬、それからパネルの作成に取り掛かり、何度か作り直しも余儀なくされました。

本番までには何とか舞台作りのお膳立てはできたのですが、主役は各団体のメンバー達です。当日来場してくれる若者たちがどのように年次総会の会場の雰囲気や溶け込み、大半が海外からの参加者という状況下うまく交流できるのだろうか、正直心配でした。この心配は2日目にして吹き飛びました。

特に活躍してくれた身延山高校手話コミュニケーション部を例にご紹介します。一日目は、高校生達はどのタイミングで誰に話しかけて良いのか、また言葉は通じるの

か等の不安が前面に出て、活動紹介もしどろもどろでした。でも、一日目の後半には思い切って話しかければ来場者は皆熱心に耳を傾けてくれ



ることを体感し始めたようでした。二日目には、学生達は、勝手に、歌と手話を交えてのパフォーマンスや会場のテーブル配置を変更して日本語手話と英語手話の比較紹介等に積極的に取り組み始めていました。慣れない英語でも、ゼスチュアも使いながら一生懸命やれば十分なコミュニケーションが成立することを実感したときの彼らの目の輝きは忘れられません。

日常経験できないような活動の機会を提供したり、多くの人達と交流し、また、団体間のコラボレーションのきっかけを作ってあげること、これこそ青少年教育の一環としてキワニスが行える奉仕の原点であることを確信した瞬間でした。
(杉田健Kファミリー委員長)

スパウス・プロジェクト

キワニスでは、現在、破傷風の母子感染を防ぐためのエリミネイト・プロジェクトを推進中ですが、第99回国際キワニス・ASPAC合同年次総会の際には、その一助として、スパウス・プロジェクトが展開されました。このプロジェクトは、国際キワニス会長のグンター・ガッサー氏の提案により、クリスチアナ同夫人が委員長となって、実施したチャリティプロジェクトです。

具体的には、世界中の子ども達(幼稚園児から高校生まで)から絵画を集め、千葉大会の際に参加者にこれを購入してもらって、その集まった寄付金をすべてエリミ



ネイト・プロジェクトに寄付しようというものです。絵のモチーフは、「未来にける橋」で、サイズは

A4、画材の制約は特にありませんでした。日本地区では、各クラブ最低2枚の絵画を目標に絵画を集め、最終的に89枚の絵画を提出しました。これは、全世界の絵画750点の11パーセントに当たります。

東京クラブでは、青少年教育委員会が中心となって、絵画の募集をすることとなりましたが、日常的に広く子ども達との交流の場をもっている群馬県ガールスカウト連盟の皆さんのご協力を仰ぐこととしました。ガールスカウト連盟の皆さんは、快く協力してくださり、9枚の絵画を集めることができました。これは、奇しくも日本地区の絵画の11パーセントに当たるものです。この場をお借りして改めて群馬県ガールスカウト連盟の皆さんのご協力に感謝申し上げます。

千葉大会においては、左の写真の通り会場の一角にスパウス・プロジェクトのコーナーが設けられました。

東京キワニスクラブでは、千葉大会においてスパウス・プロジェクトのお手伝いとして絵画の監視と購入者への対応をお手伝いしましたが、最終的な売り上げは14万円となり、すべてエリミネイト・プロジェクトに寄付されました。この際には、日本各クラブの事務局の皆さんをはじめ各方面の皆様にご多大のご支援を賜りましたことに改めて感謝いたします。(磯田壯一郎青少年教育委員長)

国際大会の広報活動とメディアへの対応

今回の国際キワニス年次総会の広報活動については、会員および対外的にも広く周知すべく、事務局では、早

い時期からホームページへの掲載(「国際大会ロゴ」のバナーをクリックすると概要が見られるようにした)を行っ

て来ました。

現在は、報告書、写真集(フォト・ギャラリー)、新聞記事一覧を掲載しています。

今回の国際大会の様子は新聞主要紙に多く掲載され、テレビでも報道されました。

開催前に日経新聞(7月14日)、東京新聞(7月16日)、電気新聞(6月19日)に紹介されたほか、会期中に読売新聞(2回)、産経新聞、千葉日報、電気新聞に掲載され、共同通信の配信もあり、埼玉新聞ほか地方紙にも掲載されています。

テレビでは、NHKがエリミネイトウォークの模様を7月18日昼のニュースで報道し、千葉テレビは開会式の様子を当日(7月17日)の夕方と夜2回放映しました。

その後、河北新報(8月7日)、山梨日日新聞(8月7日)、ジャパントゥタイムズ(8月26日)にも関連記事が紹介されました。

多くのメディアで報道されたことはキワニスの周知に大いに役立ったと思っていますが、これは関係のみなさんのご協力のおかげであると感じています。

事前(4月頃から)に関係資料を魅力あるイベントとして情報提供、プレス用の資料を2ヶ月前に作成し、当方の現役時代の知人、東京クラブの関係の方々(藤原会長、増田さん、木全さん、北里さん、堀井さん)の人脈を頼りに、各社の社会部長、編集局長、関係記者のところに再三にわたってお願いにまわり、大会での取材と記事掲載を要請しました。

秋篠宮殿下ご夫妻の開会式へのご挨拶があった関係で警備が厳しく、取材は事前申し込みの手続きが必要であ



り、それが無ければ入場させないこととなったのですが、前日まで申し込みのない報道機関も多く、ぎりぎりまで連絡をし、やっと間に合ったところもありました。

努力の甲斐もあり開会式当日は、16社、26人(カメラマンを含む)ものメディアの

方々が来場し、手続きや案内、取材対応で大忙しとなりました。こういう事態のために事前に松本さん、秋山さんに相談しておりましたが、お二人のご協力でなんとか凌ぐことが出来ました。

この場をお借りして御礼申し上げる次第です。

(古屋俊彦前事務局長)



エリミネイト・プロジェクト

エリミネイト・プロジェクトは今大会の大きなテーマであり関係するイベントも幾つかありましたが、特に印象に残る2点を報告します。

1 エリミネイト・ウォーク

7月18日朝7時に、幕張メッセ国際会議場に勢ぞろい、若さを象徴する身延山高校の生徒を先頭におよそ300名の参加者が1.6kmのコースをデモンストレー



ションです。MNT(妊産婦・母子破傷風)の撲滅をプラカードやバナーで掲げ、シュプレヒコールも上品に爽やかに、そして、若々しく元気な行進、すれ違う市民の方々にも格好のアピールです。私は直前に足を痛めていたため最初にスタートしながら帰り着いたのは最終近く、途中でコース整理をしていた生徒に「ファイト!」の一声で背中を押されてのゴールインでした。複数のメディアにも取り上げられ、キワニスのアピールには絶大な効果となりました。ASPAC広島大会でもウォーク・イベントが有りました。実施に際しては種々の制限も有るのですが、参加者の連帯感醸成の視点からも日本地区の年次総会での実現を期待したいものです。

2 100K達成クラブの表彰

当クラブの実績値が4月時点で10万ドルに到達しましたので、本大会での表彰となりました。7月19日の閉会式壇上で藤原会長と共に、Gunter Gasser国際会長、John Button次期国際会長、Randy Delayエリミネイト・プロジェクト国際委員長と固い握手を交わ

し、東京クラブの全会員に対する謝意を受け取りました。100K 達成はあくまで通過点、モデルクラブの更なる上を目指して取り組んで行きましょう。

(松本一紀エリミネイト・プロジェクト東京クラブ・コーディネーター)



初めて投票に参加して

初日の合同開会式に引き続き、翌 18 日（金）の午後は、同じくホール 7 において国際代議員会議が開催されました。副ガバナー、次期ガバナー、歴代ガバナーなどは拡大 (at large) 代表として投票資格があるため、東京クラブからは 11 人。これに加えて棚澤副会長と事務局長の二人がクラブ代表として代議員となり、総勢 13 人が代議員会議に正規参加しました。投票資格のない会員も自由に出席できましたが、投票権を有する者には入口で小型の投票器が渡されました。賛否のボタンを押すと直ちに集計され、壇上のスクリーンに結果が表示されるという「優れモノ」で、時間と労力の節約になり、アメリカ的合理主義の発露なのでしょう。

国際キワニス理事会から提案された規約改正 5 件が採択されました。大半は、スクリーン表示の円グラフでも圧倒的な賛成多数で、反対投票は数パーセントでしたが、反対意見が続出して紛糾した一議案については、最後は決議に至ったものの賛成数は 70 パーセント前後

にとどまりました。賛否の意見の述べ方がユニークで、演壇に向かって左手に 1 番 3 番、右側に 2 番 4 番のプラカードが掲げられ、賛成意見を述べたい代議員は奇数番、反対者は偶数番のところに行き、それぞれ交互にマイクを通じて意見を述べるという仕組みで、もめた 1 案件に関しては賛否それぞれ四、五人の発言がなされました。

国際キワニス役員会メンバーの推薦および選挙が引き続き行われましたが、こちらも電子システムで投票結果はすぐに表示されました。ただし、候補者別の投票数はスクリーンに表示されず、当選者名のみが表示されたのは、落選者の心情への配慮ということなのでしょう。機器の使用、討論の進め方など、国際大会で初めて代議員として投票した者としては貴重な経験を積むことができました。(広畑史朗事務局長)

国際大会に初めて参加して

キワニアンお迎え役で成田空港に。佐々木・石井・樋口・狩野さんの元気一杯の顔。なんだか安心。

さっそくお出迎えの位置につく。廣瀬さんが、仁王立ちでキワニス掲示板を高々と掲げている。隣で、狩野さんも神妙な顔で掲示板を握りしめている。「出口から人が出てきた時だけ笑顔でカードを掲げれば宜しいのでは。」と言うと、廣瀬さんも狩野さんも苦笑。そりゃそうだと応える。気持ちが良い。

台湾勢御到着。佐々木さんが立て板に水で名刺交換。さすが!

2日目終了。皆さんお疲れ。佐々木さんは声が枯れている。

が、森本さんは、まだ走れるという顔つき。驚異的。ランチの例会では知り得ない、こんなに真摯で熱心な先輩方であったかと思い、キワニスに入れて頂いてよかったと思う。

ジャパンナイト司会役の原稿、徹夜で完成。日本の子ども達のアイデンティティーを成していく文化環境を、清く明(あか)く伝えたい。

ポーランドキワニアンと林さんによかったよと言われ、姉様方に着物を褒められほっとする。

超特急で終わった大会であったが、懐深い先輩方に感謝。

なかなだかり
(仲村渠千鶴子会員)

東京キワニスクラブに入会させて頂いたのが、昨年の暮も近い頃でした。にもかかわらず、年次総会開催にあたり「サポートをしてほしい」との要請で、海外からのVIPの成田空港での出迎え、開会式での案内や警備、ジャパンナイトへの参加等の思わぬ体験をする機会を得ました。以下、私の若干の雑感を述べたいと思います。

成田空港では、キワニスの会員は、皆、特注のキワニスのポロシャツを着用(私は緑色)し、各々担当毎のVIPを出迎えました。ご想像の通り、出迎えが精々と進んだわけではなく、報告書にもあった通り、様々なハプニングが起りましたが、皆様の見事なまでの目配り、チームワーク、責任感が発揮され、大事な役割を乗り切

る事が出来たと思います。

乗り切れたもう一つの要因は、特注のキワニスポロシャツの着用がポイントであった事は言うまでもありません。私自身も今回、キワニス参加の為に来日された、自分の担当ではない外国人の方々から声を掛けられ、相談された事がありました。「Kiwanis」と大きな字が入って、シンプルだが、目立つ色のキワニスポロシャツがキワニス会員の目配り、チームワークを引きだした道具立てで、正に「グッドアイデア」という感を持ちました。

次に、今大会のスタートとして、大変な盛り上がりを見せた開会式。日本体育大学チアリーダー部のチアダンスで幕が開き、ケネディ米駐日大使のビデオメッセージ、秋篠官殿下、同妃殿下のご臨席とご挨拶、千葉県知事、千葉市長のご挨拶、吉川久子女史のフルート演奏、幕張総合高校のオーケストラ演奏、合唱団の合唱などなど…。これらに加えて、当たり前だと言えばそうですが、国際色豊かな、正に世界のキワニスに相応しい幕開けであったと思う。

ジャパンナイトはなんとと言っても、海上自衛隊東京音楽隊のプラスバンドと三宅由佳莉三等海曹の演奏、特に三宅三等海曹の歌声は、海外から来られたキワニス会員の方々に好印象を与えたものと思うし、私にとっても思



わず感動した素晴らしい歌声でした。

以上が私の雑感ですが、今回、東京キワニスクラブの活動のほんの一端を体験しただけではありますが、肩の凝らない自由な雰囲気、国際的なネットワークに裏打ちされた存在感など、伝統あるクラブに入会出来た事を改めて感謝する次第です。

最後になりますが、企画から準備、それから当日の警備等、様々な裏方の方々、本大会を運営なさってこられた方々に対し、皆様の御努力が本大会の成功を導いた事と存じ、心より敬意を表するとともにお祝い申し上げます。
(横尾敬介会員)



7月17日から19日の間に開催された大会には、成田空港でのお出迎えのお手伝いに始まり、ジャパン

ナイト、総会、柔道の山下八段の講話、閉会式などのイベントに参加しました。

世界50地区からの大勢のお客さまのお迎えは、佐々木様ほかコアメンバーの用意周到な準備と到着時刻の読みが当たり、日本流のおもてなしが通じて台湾ほか多

くのキワニアンと空港で写真撮影、バッチ交換など得難い国際交流を図ることができました。

ジャパンナイトでは、海上自衛隊東京音楽隊のプラスバンドの演奏と三宅海曹の独唱を満喫しました。船橋のばか面おどり、和太鼓、カラオケでは多数の方が参加され大いに盛り上がり、世界各地のキワニアンも茶道、書道、着物の着付け、盆栽の展示見学を通じて日本文化の一端に触れ満足されて帰国されたことと思います。

大会の随所で日本のキワニアンの世界大会を成功させようという熱い思いが実感され、また日ごろお話しする機会がなかった会員の方々と親しくお話ができ、新たな交流の輪が広がった有意義な大会でした。ありがとうございました。
(佐藤隆会員)

事務局の様態替え

東京キワニスクラブは、長く産経新聞社内に事務局を置いていましたが、サンケイビルの建て替えに伴い転出を迫られ、当時の菊岡事務局長はじめ多くの会員のご尽力により、平成8年11月に、現在の内神田、米山ビル7階に転居しました。同月22日に会員への新事務局お披露目を行なったとの記録が残っていました。

それから18年、佐藤隆國事務局長のご尽力で壁一面に収納棚を設置したほかは、移転当時のままでした。ところが、今年は東京千葉国際大会が開催されるという

で、その準備・検討作業などが増えることに対応するため、3月に入り口側のスペースを大きく整理



し、会員の皆さんの打ち合わせに使いやすく改善しました。国際大会も無事終了したので、この9月には事務局員の執務環境の改善と機能性向上を図るべく、長机の導入・レイアウトの変更等を行いました。

会員の皆さんが、これまで以上に気軽に立ち寄って下さることを事務局員一同お待ちしております。（広畑史朗事務局長）



靖国神社「慰霊の泉」改修工事 竣工祭 2014. 6. 10

50周年記念事業の一つである靖国神社「慰霊の泉」改修工事については、4月25日に起工・安全祈願のための清祓式が行われ、同日から着工され、鋭意工事を進め、6月10日10時から完成に合わせて竣工祭が執り行われました。

会員40名のほか、施工の北野建設株式会社北野貴裕代表取締役社長等が、参列するなか、祭典が行われました。

はじめに工事の無事竣工を感謝する祝詞を奏上（水野智之権禰宜）しました。その後四方を祓い清め、徳川宮司、藤原会長ほか関係者が玉串を捧げ拝礼し、滞り

なく祭典を終了しました。

なお、毎年4月始め頃に行っておりました「慰霊の泉」献納記念昇殿参拝については、今回は、この竣工祭にあわせて行うこととしました。まず、9時に靖国神社参集殿に集合、本殿での献納記念参拝終了後に「慰霊の泉」に移動して竣工祭を行う運びとしたものです。

今回の改修工事の内容は

- ・全体の塗装工事、モニュメント本体は雨などで汚れない塗装（光触媒塗装）にしたこと
- ・石工事（池廻り縁石立ち上がり撤去・新規取り付け、黒御影石の加工設置など）

・「慰霊の泉」銘版の取替え、移設（英語表記を追加）

・モニュメント戦石・立ち上がり戦石後方の雨水対策（砂利、防草シートなど）

・ポンプ更新（排水ポンプ2台、循環水ポンプ1台）

のほか、植栽関係工事と排水溝の調査等を行いました。工事費は約388万円でした。

靖国神社から100万円の協賛金をいただきました。

また、竣工祭終了後、藤原武平太会長から北野貴裕北野建設会長兼社長に感謝状の贈呈式が行われました。（古屋俊彦前事務局長）



靖国神社「慰霊の泉」献納記念昇殿参拝並びに竣工祭に参加して

2014. 6. 10

6月10日、久しぶりに上着とネクタイを着用、クールビズに慣れた体も今日だけは幾分背筋を伸ばし、シャキッと出掛けました。これまで何故か機会がなく、靖国神社を訪れるのは、何と今日が初めてという記念すべき日となります。「慰霊の泉」献納記念昇殿参拝並びに50周年記念改修工事竣工祭参列の栄に浴することができたのは、キワニスクラブに入会させていただいたお陰と感謝いたします。



幸い前日までの雨も上がり、杉木立の香気が漂う静謐な境内に足を踏み入れると、自然と厳粛な気持ちになります。参集殿に集合、手水で清めた後、藤原会長を先頭とする多数のキワニスクラブのメンバーとともに昇殿して参拝。世界平和の実現と子どもたちの健やかなる成長を心から祈願いたしました。

引き続いて「慰霊の泉」に移動、キワニスクラブのメンバーのほか北野建設の関係者など多数が参列して竣

工祭が執り行われました。「慰霊の泉」の三角形をした独特の彫刻は「清らかな水を英霊に差し上げる母」をイメージしているとの由来を伺って深く感動するとともに、静かな環境の中で清らかな水をたたえる「慰霊の泉」の清々しい佇まいも強く印象に残りました。

改めて、この「慰霊の泉」を奉納した東京キワニスクラブのメンバーであることを誇りに感じた一日でした。

(細田久雄会員)

ドールをつくる会

今年度のキワニスドールをつくる会は、43回実施されました。

- 1) 5月に開催したキワニスドール・シンポジウムに初参加された霞ヶ浦看護専門学校教員の弓野様のご尽力により、8月21日に、つくば看護専門学校で、同県内の看護学校の教員・看護師を対象に



岡村製作所にて 2014. 6. 25

「キワニスドールをつくる会」を初めて実施し、15名が参加しました。これを機に、茨城県内の看護専門学校でもキワニスドールが制作、活用されることを期待しています。

- 2) 日比谷会員のご紹介で、9月12日には、昭和女子大学付属高等学校でも最初の「キワニスドールをつくる会」を実施し、教員・生徒15名が参加しました。今後は授業、或はクラブ活動の一環として継続実施される予定です。

- 3) 9月25日、新人オリエンテーション前に新人会員向けの「キワニスドールをつくる会」を開催し、会員6名が参加しました。

今年度の「キワニスドールをつくる会」の累計結果は以下の通りとなりました。

実施回数：43回

参加頂いた会員総数：193名

参加頂いた会員外参加数：1026名

ご参加頂きました皆様方に改めて感謝申し上げます。

(大東健治ボランティア活動委員長)

第2回 日本子ども療養支援研究会シンポジウム

ーキワニスドールの紹介ー 2014. 6. 7～8

日本子ども療養支援研究会のシンポジウムが6月7日から8日の2日間にわたり東京で開催され、昨年に続き、キワニスドール紹介の機会をいただくことができましたので、取り組みの状況と課題などについて発表しました。

この研究会は、「子ども療養支援協会」が目指す活動を推進するにあたり会員の研究発表機会の提供あるいは学術的水準の向上などに取り組むため発足した組織で、具体的な課題に重点を置いて意見交換・情報共有を図ることを目的としたシンポジウムを継続して開催しています。この活動を中心となって推進している田中恭子先生・CCS・HPS(順天堂医大、東大病院)からお誘いをいただき、応募したところ了解が得られたため、『「キワニスドール」～小児病棟で子どもたちを見守る小さな天使～として』キワニスクラブの取り組みを紹介したものです。研究会の趣旨に沿い、子どもたちと医療に携わる方々がドールを介して心を通じ合うことを願いつ

つ、ドールが持つ癒しの直接効果と医療現場でのプレパレーションツールとしての効用などに重点を絞ったプレゼンテーションにしました。

このセクションでは子どもたちの療養支援に係わる10事例の発表が行われましたが、流石に医療現場におけるケースが殆どで、一般からはドールの1例のみでした。参加者は120名ほどでしたが、高坂副会長と大東委員長に会場へご足労いただき、ドールとパンフレットを置いて出席者の皆様に直接手に触れて頂きました。キワニスドールをご存知の方も何名か居られ、非常に意を強くした次第です。今後も関係個所への周知には地道に取り組んでいきます。

(注) ①子ども療養支援協会とは、子どもの人権が尊重された医療の提供、そのための療養支援士制度の立ち上げ、などを目的として2010年に発足、

- ・子ども療養支援士認定コースの開設、運営
 - ・調査、研究及び啓発活動
 - ・関係団体との連携及び協同
- を活動の柱として医療関係者を中心に活動を進めている団体

- ② CCS : Child Care Staff の略で当協会認定プログラム終了資格
- HPS : Hospital Play Specialist の略で英国における認定資格
(松本一紀ボランティア活動委員会委員)

東大病院からのアンケート

東京大学医学部附属病院 小児 HCU 主任副看護師長様からドールについてのメールをいただきました。

平素より大変お世話になっております。今回も 30 個送付して頂き、誠にありがとうございました。心より感謝いたします。

1. 今回のご使用目的

- ・手術前プレパレーションにて使用

2. 今回のご使用方法

- ・人形に名前をつけてもらい、お友達になってもらう
- ・患児にキワニスドールとカラーマジックを渡し、自分で好きなように人形に色を付けてもらう
- ・手術室の看護師の術前訪問の際にも、共通のプレパレーションのツールで使用

3. 今回お使いくださる方

- ・対象年齢：3～10 歳



4. ご使用頂いた方々の感想

- ・キワニスドールを手術室に持っていき、手術室に泣かずに入室できた
- ・数年かけて複数回の手術が必要なので、初めて作成したドールを入院時いつも持参している。大事なお友達としていつも一緒にいる。

東京共済病院 MSW (医療ソーシャルワーカー) の方から



子どもたちはいつも、ドールを大事にしてくれますが、前回とても心打たれるエピソードがあったので、シェアいたしますね。お父様ががんで具合が悪い女の子ですが、キワニスドールを作った翌週のセッションの時に、左の写真のお人形を持って来ました。

お母さんに頼んで作ってもらった、ベッドに入ったお父さんです。横にすれば、ベッドにお布団をかぶって寝ているお父さんになるし、公園に遊びに行く時などは、バッグにもなるので、バッグにお父さんを入れておでかけしているそうです。いつも一緒に居られるので。教えてもらって、とても嬉しくなりました。

作成するのは、大変なことと想像いたします。

大切に、使わせていただきます。

第 48 回キワニス社会公益賞贈呈式 2014. 7. 4

第 48 回キワニス社会公益賞は、7 月 4 日の例会の席上、贈呈式が行われました。今回は会員の推薦も含めて 15 団体の候補のうちから、委員会で慎重に選考、審査を行い、以下の 3 団体が選ばれました。

八王子の荒れた里山を開拓し、そこへ大田区に所在の児童養護施設の子ども (小学生) 達を毎月 1 回連れて行

き、自然とふれあいさせ、遊具づくりや落ち葉集め、畑作業などを体験させる活動をしている「東京里山開拓団」。

不登校、いじめの被害の子どもや発達障害の子どものためのフリースクールで学習指導だけでなく、フットサルやテニス、太極拳などのスポーツも行って、子ども達それぞれに合った支援をし、彼らの居場所を提供し、

また、生活保護家庭や低所得のひとり親家庭の子どものための、無料の学習支援もしている「HINO 飛ぶ教室」。

引きこもりで悩み苦しんでいる青年とその家族のための支援活動、具体的には電話相談、居場所の開設、出前相談(当事者の自宅へピアサポーターが出向く)、親のカウンセリング、学習会、就労支援などを行っている「NPO 法人楽の会リーラ」。

贈呈式にはそれぞれの団体の代表が出席し、藤原会長から表彰状と副賞を贈呈しました。

受賞に際して「東京里山開拓団」代表堀崎茂氏は、「荒れた里山を開拓して、環境保全と児童福祉を両立させながら取り組んでいるが、今回の受賞を励みとして地道に一石二鳥の取り組みを続けていけたらと思っています。」と述べられ、「HINO 飛ぶ教室」代表滝口仁氏は、「障害のあるなしで子どもをみない、障害があってもその種別で子どもを分けないという考え方で、知的障害のある子、自閉症の子どもなどどんな子どもでも受け入れて教室の運営をしてきたが、今後行政の手が及ばない18歳以降の若者にも支援を行っていくよう取り組みます。」と述べられ、「NPO法人楽の会リーラ」理事長安齋陽一氏は、「長い間外に出ていない子どもは一筋縄では出て来ないので、まず電話相談を受けることにし、またそういう子ども達が来られる居場所をつくったりして、活動を広げてきました。引きこもり問題は難しく、子どもの年齢が上がり、親も高齢化しており、社会的にはなかなか認められておりませんが、引き続き活動を続けていきたい

とっております。」と述べられました。

各代表の発言後、藤原会長が「今年は、東京キワニスクラブの50周年という記念すべき年であり、社会的にハンディキャップのある方々を支援している団体に焦点を絞り、この賞を授けることになりました。本日、受賞された三団体は正に子どものための奉仕という私共キワニスの活動の基本と軌を一にするものです。三団体それぞれ代表者を中心に多岐にわたる活動、アイデアを生み出して実施されていることに感銘を受けました。私共の支援は巨額とは言えませんが、これからも皆様の活動がますます充実して、受益者が増えることを心から祈ります。」というお祝いのことばを述べました。

(中門弘社会公益委員長)



青少年教育賞表彰式と交流会 2014. 8. 30

平成26年8月30日、青山のドイツ文化会館において、第30回の青少年教育賞の表彰式を行いました。今年のも最優秀賞は、劇団虹で、優秀賞は、立正大学児童文化研究部と神奈川県警察大学生少年サポーターの2団体でした。劇団虹と立正大学児童文化研究部は、地域の児童に対して児童保育等の場で行っている情操教育の取り組みを評価された受賞であり、大学生少年サポーターは、犯罪に関与した少年の更生に対する支援を評価された受

賞となっております。

表彰式の終了後に、今年にクラブ創立50周年記念事業の一環としてキワニス日本財団からの助成をいただき、過去の青少年教育賞受賞団体との交流会を開催しました。

過去に青少年教育賞を受賞された41の団体と5人の個人のうちから、13の団体が招待に応じてくれました。過去の受賞団体からの参加者35人と今年を受賞団体の参加者にキワニス会員も含めて全部で73人の参加者で幅広く意見交換や情報の交換を行いました。

(磯田壯一郎青少年教育委員長)



キワニス シンポジウム 日本の子どもの問題を考える 2014. 9. 27

9月27日、東京キワニスクラブは、千代田区永田町の星陵会館で、「日本のこどもの問題を考える」シンポジウムを開催しました。藤原会長による挨拶の後、東京キワニスクラブが支援する、子ども達のための活動を行っている以下の3団体のリーダーから、各々の団体の活動についての講演を拝聴しました。

1. かものはし 村田早耶香さん
(アジアの児童買春の撲滅に取り組む)
2. キッズドア 渡辺由美子さん
(日本の子どもの貧困の問題、養護施設の子どもの進学支援)
3. ブリッジフォースマイル 林恵子さん
(児童養護施設の出身者の自立支援)

その後、休憩をはさんで、堀井次期日本地区ガバナーの司会により、参加者が10人前後の3グループに分かれ、講演者が3グループを順番に訪問するワールドカフェ方式で、グループ・ディスカッションを行いました。ディスカッションでは、3団体の活動についての感想や質疑応答、こうした活動に対するキワニスクラブによる支援のあり方等を幅広く議論し、最後に3グループの代表による発表が行われ、吉田副会長の閉会の辞で会合を終えました。

3人の女性講師に加え、多くの女性が参加し、39名



の参加者のうち27名が女性という構成になったことから、女性によるボランティア活動のあり方という観点からも活発な意見が交わされ、実りの多い会合になったと思います。参加者からは、3団体の素晴らしい活動を知る良い機会であり、かつ、グループ・ディスカッションによって講師の方々と直接話ができて、大変有意義であったとの感想が寄せられています。

また、こうした会合を定期的で開催し、かつ日本地区全体に広げていくことが望ましいとの意見が聞かれ、堀井次期ガバナーからも、貴重な提案として「副ガバナー会議やタスクフォースで広く議論していきたい」との発言がありました。(吉國眞一メンバーシップ委員長)

福井県人サテライトクラブ活動報告

東京キワニスクラブ福井県人サテライトクラブ(以下「福井サテライト」と記す)は、「福井キワニスクラブ」の新設を目的に、東京クラブの支援をいただき、昨年12月に会員10名で発足いたしました。

活動は新規会員の開拓と毎月の例会開催を基本に、例会はゲストに参加いただき、また親クラブの行事や福井県人との交流会等に合流できるように開催日を設定、東京クラブ50周年記念祝賀会及び関東在住の福井県人の会である東京若越クラブの会に参加いたしました。

先般、9月例会をキワニス日本地区泉州大会の翌日の6日に福井県小浜市で開催、小浜市のボランティア関係の方々との交流を深め、また、若狭の語り部の方に若狭の歴史、福井県の生い立ちに関わる講演をいただき、福井県の諸事情について理解を深めました。

福井県は、嶺北越前と嶺南若狭の二つの藩が一つになった県と思われていますが、嶺北は福井藩の支藩や幕府領、旗本領、国外大名の領地など多数の領主に分割統治されており、明治維新後も7つの県に別れたり、石川県と滋賀県に分割編入されたりしていたものが、明治14年によく現在の形になった複合体です。

区分的にも北陸地方、中部地方、近畿地方などと様々に分類されたりして、県単位でまとまる意識が希薄になっているのかもしれませんが。

来春、北陸路に新幹線が開通、この時期に改めて郷土を見直し、新しい枠組みも視野に入れた「福井キワニスクラブ」の開設ができればと、活動を強化していきたいと思っています。ご支援よろしく申し上げます。

(竹嶋一久福井県人サテライトクラブ事務局長)

宮崎キワニスクラブと佐賀キワニスクラブの新設 2014. 7. 20

九州ディビジョンでは、早川副ガバナー(当時)のリーダーシップの下、ディビジョン会議を開催し、様々な議論を行なって来られた。「九州はひとつ」というスローガンの下、成長戦略についても、ディビジョン単位での取り組みを進められた。空白県であった宮崎県での立ち上げ

については、鹿児島クラブが中心になり、また、同じく空白県であった佐賀県については、熊本クラブが中心になり、それぞれ他クラブも協力して、多大なる努力をされた結果、二つの県でキワニスクラブが新設されることとなり、国際キワニス年次総会東京・千葉大会直後の7月

20日、熊本において、宮崎キワニスクラブ（児玉会長）と佐賀キワニスクラブ（岡野会長）の合同認証状授与式が行われた。

九州ディビジョンでのこの快挙に、グンター・ガッサー国際キワニス会長ご夫妻、ASPAC 小田議長、小川ガバナー、堀井次期ガバナーや石原事務総長も合同認証状授与式に参加され、全員で2クラブ新設を祝福した。ディビジョン単位での新たな試みと努力による九州全県制覇は、他のディビジョンのキワニアンにとっても大きな刺激と励みになり、またヒントとなった。九州ディビジョンのキワニアンの皆さまのご尽力とご活躍に心から敬意を表したい。

2018年までの日本地区成長戦略5カ年計画は、会員数3,400、24クラブ新設、20クラブサテライト新設であるが、特に、クラブ新設は、会員数を一挙に増やすための有効な手段であり、またキワニスクラブの子ども



のための奉仕活動を、広く日本全国に展開していくためにも重要である。

九州ディビジョンの仲間には負けないよう、頑張りましょう！
(松見芳男日本地区成長戦略委員長)

一般社団法人 東京キワニスクラブの臨時総会開催 2014. 9. 19

9月19日の例会卓話に引き続き、臨時総会が催されました。平成27年9月期の当クラブ事業計画書ならびに収支予算書の審議が議題でした。藤原会長が議長を務めて（定款19条）開会を宣言し、広畑事務局長から、出席者71名、議決権行使書の提出が75名の合計146



名で、総会が有効に成立していることが報告されました。

まず、平成27年9月期

の事業計画書について、今期は50周年記念諸行事や東京千葉国際大会の関係が重点となっていたが、次期は各事業の充実強化という地道に足元を固めていくことに力点を置いた内容になっている旨を事務局長が説明しました。続いて同収支予算書につき、事業計画と連動した予算の内容を鋳川財務委員長が説明しました。審議に入り、特段の異論もなく、満場一致で承認されました。

なお、キワニス年度は10月1日から始まるが、役員任期は定款27条により定時総会終了時までなので、次期新理事と監事の選任は11月の定時総会の審議事項となっているが、参考までに次期役員候補者（案）を配布している旨、議長から補足説明がなされました。

(広畑史朗事務局長)

第38回 国際キワニス日本地区 年次総会 泉州大会の報告

2014. 9. 5

1. 上記大会がさる9月5日（金）午後、泉州クラブをホストとして、「スイスホテル南海大阪」で開催されました。冒頭、小川ガバナーから、特に、国際キワニス東京・千葉総会が大成功裏に終わったことについて日本地区各クラブの協力を深謝する、との挨拶がありました。10月1日より始まる2014-2015年度の事業計画では、成長戦略の推進・日本地区会員2,000人の実現、エリミネイトプレッジの達成、今後50年を見据えた日本地区としての新たな奉仕活動の検討（このためガバナー、



副ガバナーを中心としたタスクフォースを発足させる。)、若い世代との交流促進の4点が決定されました。成長戦略では、長崎、佐賀に続くクラブ新設目標を実現すること、コスモスサテライトクラブ、福井県人サテライ

トクラブ、パソナサテライトクラブに続き5～10のサテライトクラブの新設を目指すこととされました。また、国際キワニス100周年世界大会(2015年6月25日～28日、於インディアナポリス)への100名参加を目標とすることが謳われました。

2. 来年度の人事では、ガバナーにわがクラブの堀井紀壬子氏が、次のガバナーには高松クラブの倉田康夫氏が、事務総長にはわがクラブの石原正之氏が、それぞれ選任されました。各委員長にもわがクラブ会員が多数選任されました。来年の第39回大会は、9月4日に大宮で開催されますが、次の再来年の40回大会は、西

宮クラブがホストで、平成28年9月9日、「リーガロイヤルホテル(大阪)」で開かれることとなりました。

3. その後、各表彰が行われ、わがクラブ関連では、「アニュアル・ギフト・キャンペーン」に北里光司郎氏が、「優秀クラブ」として2年連続わがクラブが、「優秀会員賞」として日本全体21人中11人のわがクラブ会員が、それぞれ表彰され、わがクラブの活躍ぶりを示しました。

4. 夕食懇親会では、泉州の特産品を中心としたご馳走と和気あいあいとした懇談で盛り上がりました。泉州クラブのおもてなしの心に感謝します。(藤原武平太会長)

初めて日本地区年次総会に参加して 2014. 9. 5

今年の8月にキワニスクラブへの入会を許され、何をしてもすべて「初めて」にもかかわらず、大胆にも日本地区年次総会に参加した動機は、堀井ガバナーのデビュー総会と聞いたからである。

私の入会に当たっての推薦者は、棚澤青路さんと堀井紀壬子さん。その堀井さんのデビューである。参加しない理由があるのか。総会での堀井さんのガバナー方針説明における意欲的な姿勢には刺激を受けたものである。同性として同氏のガバナー就任を誇らしく思うと同時に、これからの縦横無尽のご活躍に期待するものである。

さて、総会そのものについての感想は、各議題について、提案だけではなく参加者との意見交換があってもよかったのではないかと。せっかく全国から大勢のメンバーが集った機会である。総会では時間の制約がある

というのであれば前段会議などの活用も考えられるのではないかと。

夜の懇親会は、その日のうちに帰京せざるを得ず、途中退席を余儀なくされたが、指定されたテーブルでの会話は弾み楽しい時間を過ごすことができた。男女半々の配席で主催者のご配慮に感謝。特に、来年の埼玉大会の実行委員会メンバーの齊藤壽美子さんと隣り合わせになり、埼玉の実行委の方々の準備活動のお話をお聞きしたり、来年参加のお誘いを受けたりと埼玉の皆さんの来年にかけける並々ならぬ意気込みに感服したところである。

来年はお隣の県、埼玉である。東京クラブの一員として及ばずながら何等かのご協力をしたいものだ。

(田中悦子会員)

新入会員オリエンテーションに参加して 2014. 9. 25

今年2月にキワニスクラブに入会させて頂いてから、それ以降毎月の例会にも殆ど出席できませんでしたが、9月25日に新橋「倶楽部エル」で開催された新入会員オリエンテーションには、開始時間に遅れつつも“無事”に出席させていただきました。遅れての出席のため端に残っていた席に座ったところ、同じテーブルには元の勤務先(日本銀行)の同僚(西畑一哉氏)が既に赤い顔をして懇談していて、何となくホッといたしました。

自己紹介では、大嶋姓のため「あいうえお順」でトップバッターで指名されました。約10名の自己紹介の中には、何と〇〇歳になられてから、亡くなられたご主人の後を継いでご入会された方がいらっしゃいました。それだけ、愛されるクラブであったということでしょう。

その後の藤原会長を始めとする各委員長からのご挨拶もそれぞれ当意即妙で、さすがと感じた次第です。私と同じテーブルにおられた高坂副会長は、ご挨拶のために酒量を抑えて時間待ちをしておられたそうで、この点でも感心いたしました。

私が当クラブ会員となったのは、日銀の先輩(吉國メンバーシップ委員長)と後輩(狩野事業企画委員長)のご推薦による全くの偶然に過ぎません。しかし、一旦入会してみますと、「第二の人生で友人、知り合いが出来る素晴らしい集まりだ」と実感しています。例会出席は必ずしも毎回と言うわけには行きませんが、キワニスクラブの目的の一つである幼い子ども達への奉仕と合わせ、自分の新しい人脈作りの一環として、当クラブを上手に活かして参りたいと考えております。

(大嶋英一会員)



2014年6月から9月までの活動

2014年6月	3	火曜会
	3	第65回国際懇話会(講師:丹羽宇一郎氏)
	3	ペーリッガーインゲルハイムジャパンドールをつくる会
	6	第2176回例会(講師:仲村渠千鶴子会員)
	7	田園調布学園キワニスドールをつくる会
	7	第2回日本子ども療養支援研究会 発表&ドール展示
	10	「慰霊の泉」献納記念昇殿参拝、竣工祭
	10	火曜会
	12	第64回日本酒を楽しむ会
	14	田園調布学園キワニスドールをつくる会
	14	日本メトロニック社会貢献プログラムドールをつくる会
	15	歌舞伎鑑賞教室
	17	火曜会
	17	千代田キワニスクラブ例会 講師:大堀太千男会員
	20	第2177回例会(講師:大野重國会員)
	20	宮崎・佐賀クラブ設立総会
	24	火曜会
	24	第80回囲碁愛好会
	25	岡村製作所ドールをつくる会
	26	宝塚観劇会(宙組公演)
7月	1	火曜会
	4	第2178回例会 第48回社会公益賞贈呈式
	8	火曜会
	10	第65回日本酒を楽しむ会
	15	火曜会
	17-19	第99回国際キワニス年次総会東京・千葉大会
	18	ユースフォーラム交流会
	22	火曜会
	22	第81回囲碁愛好会
	24	京都クラブ祇園祭 後祭例会
	25	第2179回例会(講師:安井源之新氏)
	29	火曜会
	30	サマーパーティ
	30	アクセンチュア社会貢献プログラムドールをつくる会

8月	1	第2180回例会(講師:川松正孝氏)
	5	火曜会
	5	横浜クラブ納涼家族例会「横浜港花火大会」を船上より見物
	19	火曜会
	21	つくば看護専門学校ドールをつくる会
	26	火曜会
	26	第82回囲碁愛好会
	28	宝塚観劇会(雪組公演)
	29	第2181回例会(講師:高橋温氏)
	30	青少年教育賞表彰式・交流会
9月	2	火曜会
	5	第38回キワニス日本地区年次総会泉州大会
	7	第42回文楽を楽しむ会
	9	火曜会
	9	第66回国際懇話会(講師:齋藤健氏)
	12	第2182回例会(講師:吉成真由美氏)
	12	昭和女子大学附属高校ドールをつくる会
	14	第42回文楽を楽しむ会
	16	火曜会
	18	宝塚観劇会(星組公演)
	19	第2183回例会(講師:大澤佳雄会員)臨時総会
	20	目黒星美学園学園祭ドールをつくる会
	20	国立成育医療研究センター見学
	21	第42回文楽を楽しむ会
	25	新入会員オリエンテーション
	25	東京家政学院ドールをつくる会(授業)
	27	キワニスミニシンポジウム
	28	大相撲秋場所観戦会
30	火曜会	
30	第83回囲碁愛好会	

2014年10月から2015年1月 今後の予定

2014年 10月	2	秋季ゴルフ大会(狭山ゴルフクラブ)
	3	第184回例会(講師:秋山剛康氏)
	7	火曜会
	9	第67回日本酒を楽しむ会
	11	荏原看護専門学校学校祭ドールをつくる会
	11	板橋看護専門学校学校祭ドールをつくる会
	14	火曜会
	14	第67回国際懇話会(講師:石川一洋氏)
	16	宝塚観劇会(花組公演)
	17	第2185回例会(講師:永井英明氏)
	18	新橋演舞場10月花形歌舞伎
	21	火曜会
	26	児童虐待防止オレンジリボンたすきリレー
	28	火曜会
	28	第84回囲碁愛好会
	29	エリミネイトプロジェクト支援第10弾コンサート
	31	第2186回例会(講師:川村利美氏)
11月	1	広尾看護専門学校学校祭ドールをつくる会
	4	火曜会
	11	火曜会
	13	第68回日本酒を楽しむ会
	14	第2187回例会(講師:横尾敬介会員)
	16	落語鑑賞会
	18	火曜会
	20	第68回国際懇話会(講師:米澤潤一会員)
	21	第2188回例会(定時総会)
	21	新旧役員懇親会
	25	火曜会
	25	第85回囲碁愛好会
	27	宝塚観劇会(月組公演)

12月	2	火曜会
	5	第2189回例会(講師:奥野善彦会員)
	7	第43回文楽を楽しむ会(鑑賞教室)
	9	火曜会
	11	第69回日本酒を楽しむ会
	13	第86回囲碁愛好会(大会&忘年会)
	14	第43回文楽を楽しむ会
	16	火曜会
	19	第2190回例会(講師:南條史生氏)
28	第九を聴く会	
2015年 1月	9	第2191回例会 新年互礼会
	10	新春大歌舞伎
	13	火曜会
	16	第2192回例会(講師:宮田修氏)
	20	火曜会
	27	火曜会
30	第2193回例会(講師:山口広秀氏)	

■平成26年9月30日現在 総会員数 240名

■平成26年6月1日から平成26年9月30日までに入会された方 5名

金井重彦、田中悦子、都甲洋史、佐藤昌俊、坪谷ニューエル郁子

キワニスドールとは

身長約 40cm で体重約 50g、とても素朴な形で、目も鼻も口もありません。ただ一つ身に付けているのは、キワニスマークの小さなラベルだけです。

しかし、このちょっと風変わりな、ノッペラボウの小さな人形が普通の玩具の人形とは違った方法で、全世界の病気の子どもたちに大きな力を与えています。キワニスドールは、病気の子どもたちと仲良しになり、見守ることが使命です。

白い木綿生地にポリエステル綿を詰めただけのキワニスドール。ノッペラボウなのは、使う人が顔を描いたり洋服を描いたりすることができるようにしているためです。また、お医者さんや看護師さんが、治療の説明のために、人形に絵を描くこともできます。さまざまに描かれた人形は、病気のその子だけ

の人形になります。

キワニスドールは、メルボルンのナナワディング・キワニスクラブで、1988年に初めて作られました。メルボルンからオーストラリア全域で広がり、さらに1994年に北欧にも伝播しました。日本地区では2001年11月から取り組み始めました。現在では全世界のキワニスクラブでドールを制作して病院などに寄贈するという活動を行っております。

2009年から毎年、キワニスドールの利用事例などについての情報共有をはかり、作る側と利用する側双方の課題を議論し合う場として、キワニスドール・シンポジウムを開催しています。

キワニスドール (Kiwaniis Doll) を平成 18 年 7 月 14 日に、商標登録いたしました。

エリミネイト・プロジェクトについて (破傷風から世界の母と子ども達を救おう)

エリミネイト・プロジェクトは

4年目「達成する」年に入りました

2011年7月のジュネーブでの第96回キワニス国際大会に於いて、国際キワニスは、世界から妊産婦・新生児破傷風を撲滅するために2015年迄に1億1千万ドルの募金活動を行うというエリミネイト・プロジェクトを正式にスタートさせました。この世界的なキャンペーン活動は、キワニスの国際ボランティアネットワークとユニセフの医療ネットワークの協力により進める歴史的なプロジェクトであり、今年で4年目「達成する」年に入りました。

今年7月17日～19日の東京・千葉での第99回国際年次総会に於いて、エリミネイト・プロジェクトの目標達成に向けて総仕上げについての誓いを行い、続いて2015年6月のインディアナポリスでの100周年の国際年次総会で、成果を「お祝いする」事が出来るよう、全員の努力を続ける予定となっています。

日本地区は、2011年3月11日の東日本大震災のため、日本でのエリミネイト・プロジェクトは1年近く遅れてのスタートとなりましたが、エリミネイト・プロジェクトのテーマとなっている破傷風撲滅のパイオニア国として、積極的に取り組み、一貫して世界をリードする位置で活動を続けています。

既に15か国が撲滅国になり、

エリミネイトの対象国は25か国となりました

スタート当初40か国が対象国でしたが、既に15か国が撲滅国になり、後残すところ25か国がエリミネイトの対象国になっています。エリミネイトの活動の成果は着々と上がっています。

撲滅国 (15か国)

ウガンダ、ガーナ、リベリア、セネガル、ブルキナファソ、ギニアビサウ、タンザニア、東ティモール、中国、カメルーン、イラク、コートジボワール、ラオス、ガボン、シエラ・レオネ

対象国 (25か国)

アジア太平洋：カンボジア、インド (33州の内18州)、インドネシア、パプアニューギニア、フィリピン、パキスタン

アフリカ：

アンゴラ、中央アフリカ共和国、チャド、コンゴ共和国、赤道ギニア、エチオピア、

ケニア、マダガスカル、マリ、モーリタニア、ニジェール、ナイジェリア、ソマリア、南スーダン、スーダン

中東：アフガニスタン、イエメン

アメリカ大陸：ハイチ

日本地区は会員一人当たりの寄付額

ランキングで

世界第一位を続けています

世界第一位を続けています

世界第一位を続けています

日本地区は、東日

本地区大震災による1年程のスタートの遅れにも拘わらず、会員の皆様のご尽力により、この2年間会員一人当たりの寄付額ランキングで世界一位を続けています。日本、オーストラリア、マレーシアとASPACの3地区が世界ベスト5に入っているのも注目すべきことです。台湾も、支払総額では\$2Mを超過して、\$2.7MのCalifornia-Nevada-Hawaii地区に続く世界2位に位置しています。日本は、当初の目標である一人当たり\$474を世界のトップで達成し、支払い総額でも\$1.0Mを越しました。

因みに、東京キワニスクラブは、既に100Kクラブの目標を達成し、モデルクラブの目標\$165,000に対しては、実際支払総額で63%を達成し、プレッジを含む支払総額で99%を達成しています。Major Gift多額寄付者(\$25,000)3名も特筆すべきです。東京クラブの皆様には、目標達成に向けて、引き続き努力を続けると共に、東京ディビジョン全体の目標の達成及び日本地区全体の目標の達成に向けて活動を続けていただくようお願いいたします。

ELIMINATE
maternal/neonatal tetanus



1位	日本	\$638.71
2位	西部カナダ	\$614.46
3位	オーストラリア	\$537.02
4位	マレーシア	\$451.90
5位	ニュージャージー	\$292.31

キワニスクラブとは

キワニスクラブは、“世界の子どものために”を合言葉に奉仕活動を行う民間の世界的な団体です。1990年からは、特に幼い子どものための奉仕活動に力を入れています。名称のキワニスは、デトロイト周辺に住んでいたアメリカ原住民の言葉“Num-Kee-Wan-is”(みんな一緒に集まる)に由来します。

キワニスクラブは、1915年1月21日米国デトロイト市で生まれました。当初はアメリカとカナダで発展していましたが、1963年にはヨーロッパ3都市に広がり、現在世界の約80ヶ国、8,000のクラブ、約23万人の会員が国際キワニスを構成し、その本部は米国インディアナポリスにあります。

日本では、東京キワニスクラブが1964年1月24日、アジア太平洋地域で最初のクラブとして設立されました。次いで名古屋、大阪、広島、神戸、仙台、札幌、横浜、高松、福岡、京都、千葉、和歌山、新潟、泉州、埼玉、西宮、渋谷、福山、熊本、静岡、金沢、松江、鹿児島、芦屋、福島、大分、千代田、長崎の順に生まれ、現在29のクラブで会員は約1,700名で活動しています。東京キワニスクラブは、1967年2月27日社会奉仕団体として初めて、厚生大臣より社団法人の認可を受けました。2012年10月1日に一般社団法人に移行しました。

一般社団法人 東京キワニスクラブ 会長 藤原 武平太 〒101-0047 千代田区内神田2-3-2 米山ビル

Tel : 03-5256-4567 Fax : 03-5256-0080 e-mail: tokyokiwaniis@japankiwanis.or.jp URL: <http://www.japankiwanis.or.jp/tokyo>